

# 奥入瀬溪流の利活用検討 NEWS

ニュースレター  
創刊号

(平成28年6月発行)

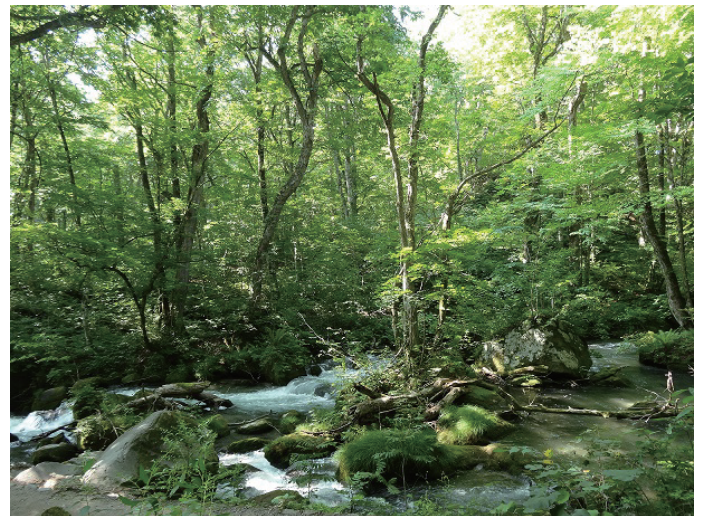
発行者：奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局（十和田市・青森県・国土交通省）

このニュースレターは、「今後の奥入瀬溪流の利活用」について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。

## 奥入瀬溪流の将来のあるべき姿・地域の目指す姿 についての検討が始まりました。

バイパス整備を契機に、道路空間を活用した新たな観光振興・地域づくりを検討します。

現在、国道103号奥入瀬（あおぶなやま青楓山）バイパスの整備が進められています。バイパスが整備されると、奥入瀬溪流沿いの国道102号の通過交通がバイパスに転換します。すると、奥入瀬溪流をより安全・快適に訪問できるように、国道102号で交通規制を実施したり、道路空間を作り変えたりする等の柔軟な対応が可能になり、今後の奥入瀬溪流の観光振興のきっかけとなることが期待されます。観光振興は、地域づくりにも大きな影響を及ぼすものです。これを踏まえて、道路空間の利活用・交通規制だけでなく、観光振興・地域づくりも含めて、奥入瀬溪流の将来のあるべき姿・地域の目指す姿についての検討が始まりました。



### 国道103号奥入瀬（あおぶなやま青楓山）バイパス事業

奥入瀬（青楓山）バイパスは、一般国道103号の青森県十和田市青楓山～十和田市子ノ口の幅員狭小、線形不良及び急勾配の隘路区間や通行規制区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とする道路です。

平成25年度より、直轄権限代行事業として青森河川国道事務所が整備することになりました。

奥入瀬（青楓山）バイパスの整備によって、災害時の被災箇所を迂回し、安全な通行を確保することが可能となります。また、奥入瀬溪流沿いの自然環境が保全され、散策時の安全性や快適性が向上することも期待されます。



# 交通規制だけでなく、観光振興・地域づくりも含めて、行政と地域の皆さまで一体となって検討を進めています。

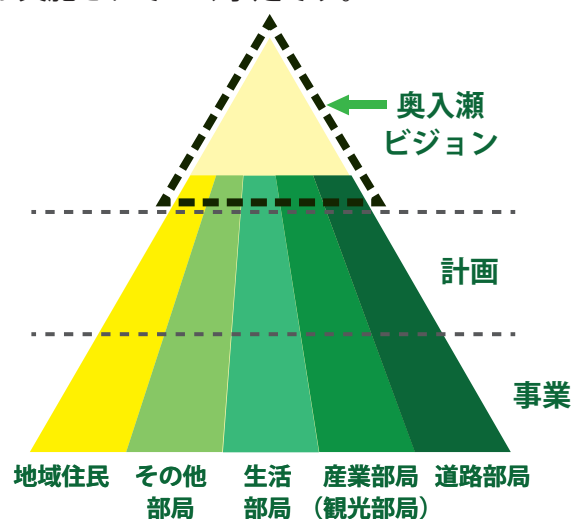


奥入瀬（青楓山）バイパスが整備されると、道路空間を柔軟に使うことが可能となり、観光振興ひいては地域づくりにも大きな影響があります。現在、バイパス整備後の交通規制についての検討を進めるため、毎年秋の「エコロードフェスタ」等、様々な社会実験が実施されていますが、交通規制だけでなく観光振興・地域づくりに視点を広げて、地域の将来のあり方について、より深く考えていくことが必要です。これは、地域にお住まいの皆さまの生活にも少なからず影響があると考えられるため、奥入瀬地域協議会を設置して、行政と地域の皆さまで一体となって取り組みを進めていくことが予定されています。

まずは、平成28年2月より、奥入瀬地域協議会の予備検討の場として奥入瀬溪流の利活用に関する講演会・ワークショップを開催し、地域の皆さまと勉強会やディスカッションを進めています。ここでは、地域の課題や今後の展望を確認するとともに、今後設置される奥入瀬地域協議会に地域の皆さまがどのように関わりながら検討を進めるべきかについても検討さ

れる予定です。

講演会・ワークショップで得られた成果は、地域の将来あるべき姿を実現するために道路をどのように活用し、観光振興にどのように取り組んでいくか等、地域の方向性を示す「奥入瀬ビジョン」に反映させる予定です。策定された奥入瀬ビジョンに基づいて、道路・観光・生活等の各分野の計画が作られ、個別の事業が実施されていく予定です。



▲地域と行政が一体となった検討の進め方のイメージ

奥入瀬溪流の利活用に関する講演会・ワークショップ

奥入瀬地域協議会

行政組織内  
有識者内での検討

奥入瀬の  
将来ビジョンの決定

↑ ニュースレターで皆さまのご意見をご紹介します。

▲奥入瀬ビジョンの策定の進め方のイメージ

## 第1回奥入瀬溪流の利活用に関する講演会・ワークショップが開催されました。

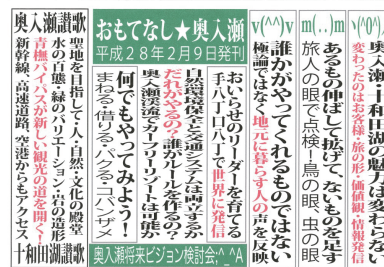
- 日時 平成28年2月9日（火）15：00～17：00
- 場所 奥入瀬溪流館（十和田市大字奥瀬字栃久保183）
- 講演会の講演者 九戸真樹様（弘前市教育委員会委員長）
- 講演会のテーマ 奥入瀬溪流・十和田湖地域の課題とバイパス完成後への期待

### 講演概要

- 奥入瀬ビジョンには、地域住民の声を反映する必要があります。バイパス整備を観光振興にどうつなげるか、考えていきましょう。
- 地域のリーダーを育て、観光客目線で地域資源を探し、魅力を世界に発信していく必要があります。



▲講演会・ワークショップの様子



▲講演会・ワークショップの資料



# 第1回ワークショップで寄せられたご意見の要旨

バイパスが整備されることで起こる変化、バイパス整備後の観光・生活分野の期待・課題等について、地域の皆さまに現状を確認して頂きました。

## バイパスが整備されることで起こる変化

- バイパスができることで距離が長くなるので移動の時間は短くならないようにも思えるが、早く通過できるようになれば生活面でも確実に便利になるだろう。
- バイパスと国道102号で交通量を分担することで、渋滞を回避するなど交通問題を改善でき、移動の時間は短くなるのではないかと。
- 夏や紅葉シーズンの国道102号の慢性的な渋滞は、バイパスが整備されると解消されるのではないかと。
- 国道102号は、地元の車やトラックがスピードを出し危なかったが、バイパスが整備されることで、国道102号の安全性も高まるのではないかと。
- バイパスに交通量が分散されると国道102号の交通量が減り、負担が小さくなり、環境保全などの対策がしやすくなる。
- バイパスの整備が自然環境にどのような影響を及ぼすか心配だ。
- バイパスそのものは奥入瀬溪流から離れているため、奥入瀬溪流沿いの自然環境に直接大きな影響を及ぼすことはないだろう。

## バイパス整備後の観光分野の期待・課題

- バイパスの整備が国道102号の渋滞緩和、環境の保全、安全性の向上につながるのではないかと期待している。
- バイパスと交通量を分担することで、国道102号を一般的な道路ではなく、「フィールドミュージアム」の通路として捉えられるようになると、観光面での魅力を高められるのではないかと。
- 奥入瀬溪流に簡単にすぐに立ち寄れる気軽さやゆったりとした雰囲気の魅力の一つだが、渋滞のためにこうした良さが損なわれていた。バイパスの整備で新たな魅力が生まれることを期待する。
- 奥入瀬溪流の観光スポットへのアクセスが不便であり、交通手段を提供できないか。現状では、冬季にバスや休屋のタクシーが運休となることも課題だ。
- 奥入瀬溪流沿いは、大型バスや自家用車の路上駐車渋滞の原因となっている。一方で、大型バスの交通規制をすると、観光客が気軽に立ち寄れなくなってしまう。
- バイパスが整備されると、通過型観光が増えてしまわないか心配だ。連泊してゆっくり楽しんでもらう滞在型観光を増やせないか。
- 多くの観光客を集客する方向もあるが、奥入瀬・十和田地域に関心の高い観光客に長く滞在してもらう方向も地域には合っているだろう。
- 高齢者や車椅子の方が通行しやすいようにバリアフリーを進めたり、トイレや休憩所を整備したりする必要がある。

## バイパス整備後の生活分野の期待・課題

- バイパス整備によって、雪道の部分が少なくなると、利便性が向上するのではないかと期待している。
- バイパス整備によって、歩道の舗装等の整備も進むことを期待している。
- 観光シーズン・休祝日の交通渋滞は、地域住民も困っている。
- 観光客だけでなく地域住民（近隣他県の方を含む）も、生活の一部として休日に、国道102号をドライブしたり、車を停めて自由に乗り降

りしたりして、溪流を眺めており、地域の魅力である。国道102号で交通規制をし、観光道路となると、溪流を気軽に楽しめなくなるのではないかと。

## バイパス整備後の産業及びその他の期待・課題

- 休屋地区では、宇樽部トンネルが整備されたことで、旧道をマラソン大会等に活用しているが、このようにバイパスの整備後の道路も、地域振興に役立つことを期待している。
- バイパスの整備後に、国道102号を交通規制すると利便性が低下する場合もあるが、対策を講じれば、車の代行サービスの提供等の新たな産業が生まれる可能性もあるだろう。

## 観光のマーケットと地域資源

- 外国人観光客の案内をすることで、改めて奥入瀬・十和田地域の魅力に気づくことができ、外国人観光客の目線で、観光資源を発掘していくとよいだろう。
- 奥入瀬・十和田地域の魅力をどのように高めるか考える必要がある。体験型のイベントの実施等、新たな観光資源を創出してもよいのではないかと。
- 奥入瀬・十和田地域に魅力はあるが、情報発信が不十分なのではないかと。
- 観光ルートを対象者別・距離別・時間別等によりきめ細かく分け、バリエーション豊かなおもてなしを用意することが求められる。適切な値段設定も行う必要がある。
- 車の代行サービスを提供すれば、十和田湖で遊覧船を利用する観光客が増える可能性がある。また、遊覧船は、観光目的に利用されるだけでなく、移動手段としても利用されるかもしれない。

## 今後の進め方

- バイパスの整備に関する情報を知りたいので、今回のような機会を設けて、進捗状況を説明してもらえるとよい。決まった後に報告するのではなく、決まる前に地域住民の意見を聞く仕組みが必要である。
- 十和田市民や休屋で事業を行っている方にもバイパスに関心を持ってもらうため、もっと情報発信をしていく必要があるのではないかと。今回のような場を十和田市内でもっと開催してはどうか。
- バイパスの整備に関する情報について、今回の参加者以外にも広く共有していくべきである。
- 今回参加して、奥入瀬・十和田地域を良くしたいという思いは共通だということが分かったので、大変有意義だった。今後もこのような場を設けて、地域住民の意見や新たな視点を取り入れた地域づくりをすべきである。
- バイパスの整備は、スピード感をもって進めてほしいと思っているが、自然環境への影響も心配だ。
- 観光客の大半が自然環境を目的に奥入瀬・十和田地域を訪れているとも聞いており、今回のような場で、自然環境への影響も検討する必要がある。

# 国道103号奥入瀬(青樺山)バイパスの整備 によって観光振興が支援されます。

## 地域の現状 “観光に大きな支障”

### 災害発生により大きな迂回が発生

- 過去10年間に、災害により奥入瀬溪流区間で27回、七曲区間で8回の全面通行止が発生しています。
- 平成11年の法面崩壊発生時には、3ヵ月半の通行止めが発生しました。
- 通行止め期間中は約35分の迂回を強いられ、観光客や地域住民の救助活動に支障が生じます。



### 狭い道路や急カーブ箇所が多く、生活道路や観光交通に支障

- 当該箇所は、すれ違い困難(W<5.5)箇所が多数存在するとともに、線形不良箇所(R<100m)が66箇所存在します。
- 国立公園の特別保護地区のため、現道改良等の抜本的な対策ができず、生活交通、観光交通に支障をきたしています。



### 観光期の渋滞や排気ガスによる、奥入瀬溪流への影響

- 当該箇所は、景勝地である奥入瀬溪流を通過していることから、観光期には生活交通と観光交通が錯綜し渋滞が発生しています。
- 渋滞により通行車両からの排ガス・騒音等による自然環境や公園利用環境に対する影響があります。



## 想定される事業の効果 “奥入瀬の観光振興を支援”

### 幹線道路の脆弱性を解消します

- 災害箇所を迂回し、災害に強い道路に改築することにより、安全な通行を確保します。



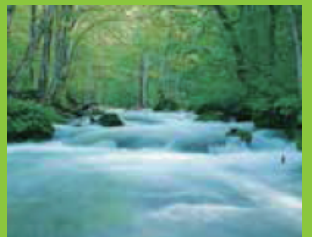
### 観光シーズンにおける渋滞を解消します

- 道路が狭い箇所や急カーブ箇所を回避し、安全な生活交通、観光交通を確保します。



### 国立公園の特別保護区である奥入瀬溪流の自然環境を保全します

- 奥入瀬溪流の自然環境が保全され、散策時の安全性や快適性が飛躍的に向上します。



**講演会・ワークショップは、第2回（平成28年4月8日）、第3回（平成28年6月16日）にも開催されています。**

※内容については次号以降でお知らせします。

お問い合わせ先

奥入瀬溪流活用検討委員会事務局（十和田市観光推進課）  
〒034-8615 十和田市西十二番町 6-1 TEL：0176-51-6772